

抗体測定協議会1月31日からの緊急対応の3回目のワクチンの加速化の提言追補

1月28日の協議会幹事会で協議された緊急提言の追補です。

新型コロナウイルス抗体測定協議会 アドバイザー

東京大学先端科学技術研究センター がん・代謝プロジェクトリーダー 児玉龍彦

-----  
2022年1月31日：1週間の緊急対応について次の補足がありました。

**オミクロン株の急増に対し3回目のワクチン接種の緊急の加速化を求めます。**

協議会ではこれまでの福島県および東京都における多数例の中和活性の経時的な測定から、2回のワクチン接種後、4ヶ月頃より急速な中和活性に低下がみられること、6ヶ月以降で中和活性の陰性化する例も見られることから、「2回目から8ヶ月以降」という待機期間に科学的根拠がなく、早期の3回目接種が必要と提言しております。

アメリカのCDCは、オミクロンが感染の中心となった時期において、3回目のワクチン接種により入院を90%減らせる効果を報告しています。（下記引用文献参照）

我が国におけるオミクロンの急増に対しても、重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患保有者での3回目接種は、8ヶ月以降という待機期間を短縮して、4ヶ月以降のなるべく早期から接種を受けられるようにすることが、重症化を避ける対応の基本として重要です。

[https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/71/wr/mm7104e3.htm?s\\_cid=mm7104e3\\_x](https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/71/wr/mm7104e3.htm?s_cid=mm7104e3_x)